

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	看護学科	平成6年文部科学大臣告示84号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2940時間/108単位	1725時間 76/単位	180時間 9/単位	1035時間 23/単位	0時間/ 0単位	0時間/ 0単位
			2940単位時間/108単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		250人	0人	20人	71人	91人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行う。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ各分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案する。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ告知する。</p>					
成績評価の基準・方法					
<p>成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断し、GPAを用いて算出する。GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入する。</p> <p>GPAの算出方法 GPAを算出する計算式は以下のとおりです。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとします。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> $GPA = \frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$					
点数範囲	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下 または不合格
成績評価	A	B	C	D	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
卒業・進級の認定基準					
<p>卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試験（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。</p> <p>卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。</p> <p>卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について</p>					

て再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。
学修支援等
学生個々に応じて必要時に学習面、対人面、健康面についての指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
65人 (100%)	0人 (%)	64人 (98.5%)	1人 (1.5%)
(主な就職、業界等) 病院、クリニック等			
(就職指導内容) 3年次4月ガイダンス時に、就職についての相談は学年担当教員・学科長が随時対応。キャリアセンターの協力のもと、面接練習、履歴書内容指導、各病院からの募集案内を掲示、就職試験のための必要書類について説明している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
240人	7人	2.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) キャリアサポートアンケート、面談、保護者との連携、転科・転校などにより学園全体で中途退学0%への取り組みを行っている。 成績不振者には、少人数制の補講を実施。		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	臨床工学技士学科	平成6年文部科学大臣告示84号	-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
3年		2730 単位時間/109 単位	510 時間 /32 単位	1665 時間 /59 単位	555 時間 /18 単位	0	0
			2850 単位時間/104 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		111 人	0 人	6 人	77 人	83 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行う。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ各分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案する。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ告知する。</p>					
成績評価の基準・方法					
<p>（概要）定期試験・平常点評価 6 成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断し、GPAを用いて算出する。GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入する。</p> <p>【GPAを算出する計算式】 「GPA＝（該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGP）の合計÷当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計」</p>					
実点数範囲	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下 または不合格
成績評価	A	B	C	D	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
卒業・進級の認定基準					
<p>（概要）卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試験（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。</p> <p>卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。</p> <p>卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。</p>					

<p>学修支援等</p> <p>(概要) 学力不足者の対策については放課後に補習を行う。また、教育委員会と連携し基礎学力向上の補講を実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	12人 (63%)	7人 (37%)
(主な就職、業界等) 病院・クリニック			
(就職指導内容) 担任およびキャリアセンターより履歴書添削および面接練習を実施			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 第2種ME技術実力検定試験・臨床工学技士			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
103人	14人	13.6%
(中途退学の主な理由) 目的希薄に伴う進路変更。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 目的意識喪失者に対しては、個別面談や仕事をすることの意味を伝え、スクールカウンセラーと協力して精神面のサポートを行い、中途退学者0名を目指す。		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門課程	歯科衛生士学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2720時間/103単位 単位時間/単位	710時間 /46単位	1110時間 /37単位	900時間 /20単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2720時間/103単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		124人	0人	4人	44人	48人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行う。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ各分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案する。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ告知する。</p>					
成績評価の基準・方法					
<p>成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断する。</p> <p>GPAの算出方法 GPAを算出する計算式は以下のとおりです。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとします。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> $GPA = \frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$					
実点数 範囲	100点～90 点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下 または不 合格
成績評 価	A	B	C	D	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
卒業・進級の認定基準					
<p>卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試験（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。</p>					

<p>卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。 卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。</p>
<p>学修支援等</p> <p>学生個々に応じて必要な知識・技術を身につける方法を指導している。定期的な面談や状況に応じて放課後・長期休暇中を利用して個別対応または少人数制で補修を行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
24人 (100%)	0人 (%)	21人 (87.5%)	3人 (12.5%)
(主な就職、業界等) 歯科診療所			
(就職指導内容) 1・2年時から就職ガイダンスに参加、3年時4月よりキャリアセンター協力のもと求人票の見方・履歴書内容説明・面接練習を行っている。 就職に関する相談は担任・学科長で随時対応。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 歯科衛生士			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
124人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) サポートアンケート、面談、保護者との連携、転科・転校などにより学園全体で中途退学0%への取り組みを行っている。		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	視能訓練士学科	平成6年文部科学大臣			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2520時間/105単位	960時間 /64単位	525時間 /18単位	1035時間 /23単位	0時間/単 位	0時間/単 位
	単位時間/単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		115人	0人	7人	58人	65人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>【様式第2号の3より再掲】毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行う。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ各分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案する。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ告知する。</p>					
成績評価の基準・方法					
<p>成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断する。</p> <p>GPAの算出方法</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおりです。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとします。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> $GPA = \frac{(\text{該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP}) \text{の合計} \cdots \cdots \textcircled{1}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \textcircled{2}}$					
点数範囲	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下 または不 合格
成績評価	A	B	C	D	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
卒業・進級の認定基準					
<p>卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試験（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。</p> <p>卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。</p> <p>卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先</p>					

<p>した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>学生個々に応じて必要時に学習面、対人面、健康面についての指導を行っている。また保護者面談も実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	19人 (100%)	0人 (0%)
<p>(主な就職、業界等) 大学病院・総合病院・眼科病院等</p>			
<p>(就職指導内容) 3年次4月ガイダンス時に、就職についての相談は担任・副担任・学科長が随時対応。キャリアセンターの協力のもと、面接練習、履歴書内容指導、各病院からの募集案内を掲示、就職試験のための必要書類について説明している。</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等)) 視能訓練士 同行支援従業者</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
98人	6人	6.1%
<p>(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) サポートアンケート、面談、保護者との連携、転科・転校などにより学園全体で中途退学0%への取り組みを行っている。 成績不振者には、少人数制の補講を実施。</p>		

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	札幌看護医療専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	看護学科	夜・通信	240 時間	240 時間	
	視能訓練士学科	夜・通信	240 時間	240 時間	
	臨床工学技士学科		330 時間	240 時間	
	歯科衛生士学科	夜・通信	240 時間	240 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

URL : https://www.snm.ac.jp/school/info/#content03

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	札幌看護医療専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

理事代表者等の名簿の公開は、学校ホームページに公開をしており、広く学校運営に係る説明責任を果たすとともに公正で透明性の高い運営を目指している。その他の詳細事項については、本学の情報公開規定に則り、情報の開示請求があった場合に関連法令の定めに基づき所定内容を開示することとしている。

URL : <https://www.snm.ac.jp/assets/doc/school/info/abm20190701-1.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社役員	令和3年6月1日 ～ 令和6年5月31日	地元(江戸川区)の名士として学校と地域の連携を図る。
非常勤	株式会社役員	令和3年6月1日 ～ 令和6年5月31日	地元(北海道)の名士として学校と地域の連携を図る。
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	札幌看護医療専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行う。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ各分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案する。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ告知する。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>授業計画票については、入学時に学生に書面で配布するとともに公開請求があった場合については全シラバスを公開する。今後 HP にて全シラバスの情報公開を行う。</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学習成果の評価については、各授業科目ごとに定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価を行う。試験の方法は試験実施の1週間前までに、その日時・方法を公示し、原則として実質50分間の試験（論文・レポート・実技・実習を含む）を行い、指導目標に対する学生の学習状況を勘案し、同じ基準に基づいて単位認定会議で単位評価評定を行う。単位の評価評定は、学生の学習意欲の向上及び適切な修学指導に役立たせると共に、海外への留学や就職等、国際的な評価に対応させることを目的として総合平均（Grade Point Average（以下GPAという））を用いる。また、成績については各個人へのフィードバックと成績通知表の送付及び掲示板への成績掲示により学生へ告知する。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。</p> <p>GPAの算出方法</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおりです。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとします。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> $GPA = \frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.snm.ac.jp/assets/doc/school/info/abm20190701-2.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試験（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。

卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。

卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.snm.ac.jp/assets/doc/school/info/abm20190701-3.pdf?v2>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	札幌看護医療専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.snm.ac.jp/assets/doc/school/info/abm20190731-2.pdf?v2
収支計算書又は損益計算書	https://www.snm.ac.jp/assets/doc/school/info/abm20190731-2.pdf?v2
財産目録	https://www.snm.ac.jp/assets/doc/school/info/abm20190731-2.pdf?v2
事業報告書	https://www.snm.ac.jp/assets/doc/school/info/abm20190701-6.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.snm.ac.jp/assets/doc/school/info/abm20190701-5.pdf

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
視能訓練士学科	200.000 円	700.000 円	360.000 円	
看護学科	200.000 円	700.000 円	470.000 円	
臨床工学技士学科	200.000 円	700.000 円	520.000 円	
歯科衛生士学科	200.000 円	500.000 円	420.000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 HP 上で公開		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.snm.ac.jp/assets/doc/school/info/self-evaluation-table.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校法人滋慶学園 札幌看護医療専門学校が設置する専修学校における教育・運営活動等の状況について、自ら行う点検及び評価の項目並びにその実施体制等について検証し、問題点を把握の上目標を明確化し、必要な支援・改善を行うことにより、教育水準の向上と質の保証を図ることが重要である。また多くの外部評価を受けることにより学校評価の精度を高め委員会を組織して、客観性を持った評価による改善を目指したい。特に卒業生、保護者、地域住民、企業等との相互理解と連携を確立し、学校の説明責任を果たしていくよう努めることにより学校の組織力を高め地域に支えられる学校づくりにも貢献したい。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院	2023年4月～2025年3月	卒業生 (北海道ハイテクノロジー専門学校)
学生の保護者	2023年4月～2025年3月	保護者
北海道札幌東商業高等学校	2023年4月～2025年3月	高等学校教諭
株式会社札幌副都心開発公社	2023年4月～2025年3月	地域代表
医療法人新さっぽろ脳神経外科病院	2023年4月～2025年3月	医療分野代表
医療法人社団 一心会	2023年4月～2025年3月	医療分野代表
学校関係者評価結果の公表方法	HP に公開	

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.snm.ac.jp/assets/doc/school/info/evaluation-committee-report.pdf https://www.snm.ac.jp/assets/doc/school/info/evaluation-report.pdf
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.snm.ac.jp/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H101310600071
学校名	札幌看護医療専門学校
設置者名	学校法人滋慶学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		92人	83人	95人
内 訳	第Ⅰ区分	52人	50人	
	第Ⅱ区分	21人	20人	
	第Ⅲ区分	19人	—	
家計急変による支援対象者（年間）				—
合計（年間）				97人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	—		
計	3人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	14人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	14人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。